



# 遊ガイド

Aibetsu Play guide

あいべつ

豊かな自然に恵まれた  
きのこの里で、心癒されるひとときを

本町の最大の観光資源は、自然です。雄大な大雪の山々、石狩川、愛別川の清流、四季折々に移ろう大自然の景観は、訪れる人の心を癒します。

国道39号線沿いのオートキャンプ場、石狩川右岸のあいべつリゾートパーク、愛別ダムでのカヌー、また道北初の本格的なレーシングカートコースなどには、近隣市町村から多くの人が訪れます。

北海道第2の都市旭川とオホーツクの拠点都市網走市を結ぶ国道39号線が東西に走っており、また隣接する上川町には層雲峡があるため、本町を通過する観光客も多く、本町においてもこうした人々に立ち寄ってもらえる観光資源を徐々に増やしていきます。



きのこの里あいべつ  
オートキャンプ場

道北地方で雄大な大雪山を望める、石狩川沿いのキャンプ場です。

場内の水車村では、水鉄砲や足踏み水車などの珍しい水車で遊ぶことができ、利用者へのサービスとしてニジマス釣り（竿レンタル、エサ込み）やレンタル自転車などが楽しめる、子供達に大人気。売店にはキャンプグッズはもとより、愛別産きのこを使った特産品なども販売しております。センターハウスには水洗トイレやシャワー、ランドリーがあり、そのほか炊事棟、屋外水洗トイレなども完備しております。2種類のカーサイトに電源も設備されており、快適なキャンピングライフが楽しめます。清潔なモットーで自然がいっぱいのキャンプ場に一度、お越しください。



### カートランドARK

道北初の本格レーシングカートコースです。お子様と一緒に乗れる2人乗りカートやジュニアカートもありますので、ご家族で安心して楽しむことができます。時速60kmの風圧を体感し、F1気分を満喫してみませんか。



### 協和温泉

「山間の清涼感」それが湯元協和温泉です。神経痛・リュウマチ・高血圧症などに効く鉱泉で、心も身体も癒されます。この売りはなんととっても「きのこのフルコース」。きのこグラタンにきのこの柳川風・しいたけの刺身・きのこのご飯等、全11品が勢揃い。一度お召し上がりください。



### 産直バザール

リゾートパークにおいて6月〜10月まで月1〜2回、きのこをはじめとした地場農産物やその加工品をPR・販売するために産直バザールを開催しています。朝採りの新鮮な農産物が数多く並び、元気なお母さん方が皆様のお越しをお待ちしています。



### きのこの里パークゴルフ場

国道39号線沿いのあいべつリゾートパーク内にあるパークゴルフ場です。大雪山の眺望と流れゆく石狩川、雄大な景色に囲まれ、さわやかな風を感じながらプレイすることができます。



### 旭川国際カントリークラブ

大雪の山並みを眺めながらのティーショットは格別です。道内に数多いゴルフ場の中でも、歴史ある名門コースです。林間コースならではの起伏に富んだコース設計で、多くのゴルファーを魅了し続けています。



### 雪中ソフトボール大会

3月の第1日曜日に開催され、雪の上で赤く塗られたボールを使い、ソフトボールを行います。10人1チームで走塁は3・2・1塁といった変則ルール。早春の1日をお友達同士で走って、転んで、跳んでハッスルしてみませんか。



### あいべつ夏まつり

8月中旬、「ふれあい通り」や「蔵 KURABA」周辺のイベント広場を中心に子供縁日・魚のつかみ取り・丸太切り競争・豊年餅まき等のイベントや特産品等の販売が行われ、多くの人々が賑わいます。

### vent



### きのこの里フェスティバル

9月の第2日曜日に愛別ダム「きのこの里広場」で開催される愛別町最大のイベント。愛別町特産のきのこ牛肉の食べ放題や直径3.5m、深さ2mの大鍋で約4,000人分のきのこ汁を作る「ジャンボきのこ鍋」、愛別のおいしい米100升を大釜とまきでいっしょに炊き上げる「百姓一揆炊き」などきのこの里の秋の味覚を満喫できるイベントです。

# Health

福祉・保健・医療



## 健康で心やすらぐ福祉のまちづくり

### 福祉

子どもからお年寄りまで、安心して暮らせる毎日を

生まれたばかりの赤ちゃんから、お年寄り、障がいを持つ方まで、この町に住むすべての人が、生涯を通じて、安全で健やかな毎を送れるよう、福祉のまちづくりに力を入れています。公的福祉サービスの充実に努めるとともに、社会福祉協議会、民生委員協議会及び地域のボランティアなどの活動を中心に住民の自主的な福祉活動への参加を促進しています。

介護を必要とする方についてサービスが適切に提供される体制を充実させ、すべての高齢者が生き



町立診療所



がいのある毎を送れる環境づくりに努めています。働くお母さんの増加なども見据えて、子どもを生み育てやすい環境づくりに、家庭、地域社会、行政が一体となって取り組んでいます。

### 保健・医療

病気の予防と早期発見、満足できる医療体制を

生涯を通して生き生きと過ごすためには、なんといっても健康であることが基本です。生活習慣病予防のための検診や乳幼児健診などの各種検診事業、機能訓練事業や保健師、栄養士による家庭訪問などのきめ細やかな保健活動を展開し、乳幼児から高齢者に至るラ



高齢者生活福祉センター



特別養護老人ホーム

イフステージに応じたサービスを提供していきます。

医療機関の利用については、地理的条件から、旭川市への依存度が高いのが現状です。

救急医療体制については、大雪消防組合愛別消防署の救急隊により、救急指定病院と連携をとり、救急患者を搬送する体制が確保されています。

高齢化が進み医療の需要も多様化しているため、健康増進、疾病予防、治療及びリハビリテーションの一環した医療体制が提供されるよう努めます。



愛別浄水場



ごみ処理施設 リサイクルセンター



高規格道路 愛別インターチェンジ

## 自然と調和する住みよい環境のまちづくり

### 生活環境

清潔で快適な生活を送れる環境の整備を

本町は石狩川と愛別川に沿って農耕地が拓かれた帯状の地域であり、自然と緑豊かな環境にあります。こうした豊かな自然環境を背景に、人と自然が共生でき、健康で文化的な生活を営むことのできるまちづくりを進めています。

良質な公営住宅等の整備、安定した生活用水の供給維持、豊かな自然環境を守るための下水処理施設の充実、また、ゴミ処理についても、ゴミの減量、分別収集、リサイクルの徹底に取り組んでいます。道路につい

ては年間を通して安全な交通を確保し、迅速な除排雪に努めるとともに、高規格道路、国道、道道、及び町道間の交通体系の充実を図っています。

### 治安・消防

安心できる毎日のために、より一層の体制整備を

愛別町に対する町民のイメージの多くは、「安心できる町」です。今後も、町民が安心して暮らせるための総合的防災体制の確立と、消防及び防犯体制の充実を図るとともに交通安全を維持します。

今後とも町民の生命、身体及び財産を守る責務を全うするた

め、消防体制の更なる充実強化・高度化が必要であるためより一層の体制整備に努めます。



# Environment

生活環境・治安・消防





# Industry

農業・商工業・林業

## 地域に息づくたくましい 産業のまちづくり

米  
おいしい・安全・低価格の  
愛別米ブランドの確立を

時代の変遷により農業政策も、変化を求められています。愛別町の農業も、この大きな変革の時代に対応した施策を推進するために、基幹農業である米の生産において、食料の安定供給のみならず、消費者の求める「おいしい」「安全」「低価格」をクリアすることが課題です。そのため、生産コストを低減し、生産性を高め、良質・良食

味の愛別米ブランドを確立し、売れる米づくりを推進していきます。また近年農業後継者の減少が問題になっていますが、農業の果たす役割や重要性を正しく理解してもらおうとの考えから、農業の体験学習や体験農園を通して、都市との交流を深め、参加者たちからも好評を博しています。農業へ夢を託して都会から移住する若い担い手が出てきているのも、頼もしい限りです。



ライスセンター



### 畜産

安全・安心・良品質な畜産経営のための振興事業を

輸入自由化により国際競争が激化する中、「安全」「安心」「良品質」な畜産を進めています。

さらに畜産経営の安定的な発展を図るために、より良い畜産物の生産と低コスト生産に向けた経営体質の強化に取り組むために、生産者、関係機関団体とも連携して各種の畜産振興事業の展開に努めます。

また、資源の有効利用と環境保全の観点から、環境管理施設の管理運営を行い、耕種農家を含めて、地域内の資源リサイクルと地域複合化を目指していきます。



榎本牧場

### 商業

ふれあいと魅力のある商店街の形成を

マイカーの普及による消費者の町外への流出や、大型店への購買力の集中、女性の社会進出やライフスタイルの変化など、消費者行動の変化により、本町の商業は多くの課題を抱えています。

こうした消費者ニーズの多様な個性化に対応できる、魅力ある商店街をつくるため、本町ならではの個性を生かしたふれあいのある商店街の形成に力を入れています。農業と商業を積極的に結びつけるまちづくり、蔵らの多目的な活用や、空き店舗の活用など、町民だけでなく、近隣市町村の住民や、国道・道々の通過客が、わざわざ立ち寄りたくなる商店街の形成を目指して、さまざまなアイデアを生かした振興策をすすめています。

### 工業

地場の素材に付加価値をつけた新しい工業の創出を目指します。

豊富な森林資源を背景とした製材・ベニヤ・集成材などの工場やコンクリート製品工場があり、堅実な生産を続けています。

また、近年は町民の中に地場製品の販売・加工をするグループ等が育ってきていることから愛別町の特産品や農産物を使用し、地域に根ざしたオリジナリティあふれる商品加工関連の新しい工業の創出をめざしています。

若者が定住しやすい単身者住宅等により、就業者住宅の確保や既存工場の経営安定のための施策、恵まれた自然環境と共生している企業の誘致にも力をかけています。



商店街



愛別生コン



大正製材



旭ダンケ 愛別工場

### 林業

守り育てる林業を目標に、造林・育林に力を入れて森林の整備を行っています。

町の84%を占める豊かな森林資源を背景に持つ本町では、開拓以来、林業が産業のひとつの核となり発展してきました。近年森林は、木材の生産のほか豊かな水やきれいな空気を育む環境材としての役割も注目されて

います。守り、育てる林業を目標に、現在、国・道・町がそれぞれ連携をとり、市町村森林整備計画や地域民有林森林経営計画で計画的に事業に取り組んでいます。また、町花、町木の植樹をはじめ、日々の生活の中で緑の優しさを感じることでできる施策にも力を入れています。

# Harmony

住民参加・協働



かかしフェスティバル



国際理解教育



ファームステイ



出前講座



愛のまち交流事業



## 住民の参加と協働で ぬくもりのあるまちづくり

コミュニティ  
創意と工夫による

「住民主導」のまちづくり

住民が住みたいまちをつくるには、町民と行政の協働によるまちづくりを行うことが必要です。

地域では複雑な課題が数多くあり、総合的に解決していかねばならず、そのためには、住民のみなさんが地域に必要な活動を選択し、これまでの行政と地域との連携をいかながら進めていく、創意と工夫による「住民主導」のまちづくりを目指します。

地域間交流・国際交流  
豊かな人間性を育む  
人とひとの交流

交流を深めることにより異文化にふれ、文化の違いを理解し、愛別町のすばらしさをより多くの人に広めるため、社会性や豊かな人間性を育む地域間交流・国際交流を促進します。

情報・通信

みんなが共有できる  
情報のしくみをめざして

町民と行政が情報の共有化を図るとともに、お互いが共通の認識を持つことにより、よりよいまちづくりをめざします。

## 豊かな心を育むまちづくり

学校教育  
個性を生かす、  
のびやかな学校教育

未来を担う子ども達の教育は、もっとも力を入れなければならない重要な課題です。近年子どもたちの心の荒廃が社会問題となつていますが、幸い、本町では、豊かな自然と地域住民のあたたかい目が見守る環境の中で、子ども達はのびのびと過ごしています。

幼稚園・保育園・学校での教育については、新しい時代に適応した、自ら学び、考え、行動し、他人を思いやる心を育てる教育が必要とされています。

本町では自然や地域の人材を生かした体験的な学習を取り入れる一方、世界にはばたく人材の育成、国際理解の一環として英語教育の充実にも力を入れています。

社会教育

人間として

豊かな人生を過ごすために

町民が生涯を通じて学ぶ場を持ち、自己啓発を行って生き生きと暮らしていくために、それぞれの年代に応じた社会教育の場が必要です。

本町では「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも」を目標に、あらゆる世代が

学ぶことのできる体制の整備と自主的活動を奨励しています。

地域で学ぶことは、大きな喜びでもあり、学びを通して、子どもとお年寄りのふれあい、地域の文化遺産への認識なども養われ、ひいては我が町を愛する心の育成にもつながると考えます。

文化・スポーツ

心の豊かさを育み、  
スポーツを楽しむ

本町には、先人の残した貴重な歴史と文化が息づいています。こうした文化遺産を保持しながら、新しい地域文化の創造を目指しています。

芸術文化の振興については、町民一人ひとりが個性を発揮し、創造性を担う自発的な営みが必要ですが、本町の豊かな自然は、そうした感性を育み、創造へと導く環境に恵まれていると考えられます。

また大自然は素晴らしいスポーツの舞台であり、四季を通して有効に利用されています。総合スポーツ公園を拠点に、多様なスポーツ活動を積極的に推進し、健康の保持増進とあたたかなコミュニティづくりに力を入れています。

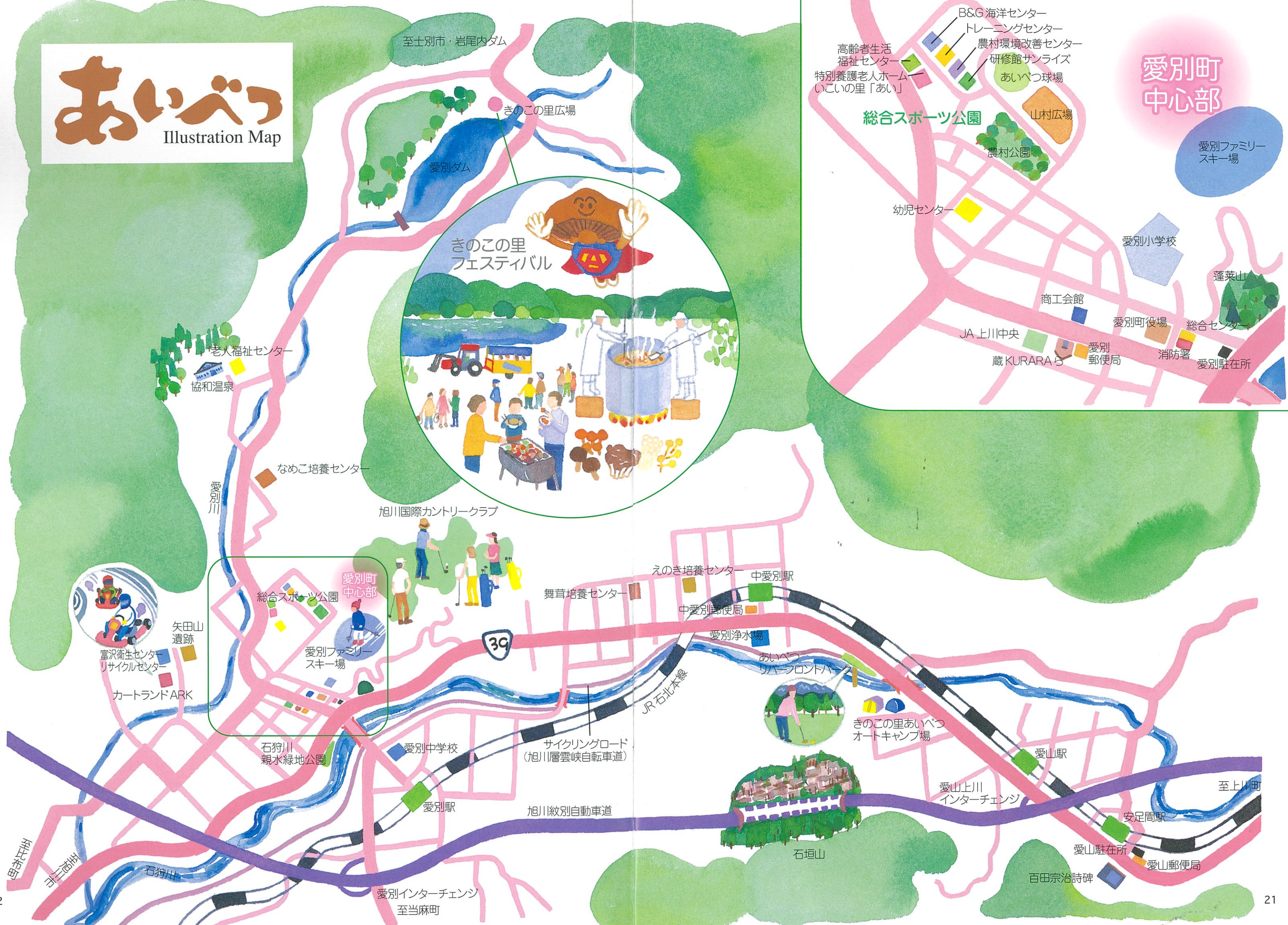


## Education

学校教育・社会教育・文化・スポーツ

# あいべっ

Illustration Map



# あゆみ

愛別の歴史

Aibetsu town History

明治28年に開拓が始められて、やがて「町」になりました。それから約半世紀のときを経て現在の私たちがあります。その50年の足跡を振り返ってみましょう。



広報あいべつ町制施行記念号(昭和36年)



役場新庁舎完成(昭和39年)

1961	町制が施行され愛別町となる。前代豊作氏が初代町長となる。
1963	旭山、協和、中里、愛別の4中学校統合する。
1964	国道39号線の変更新国道開通する。
1965	役場新庁舎鉄筋コンクリート3階建、1,207平方メートル落成。
1966	愛別町民憲章を制定。
1967	旭川国際カントリークラブ愛別コースオープン。
1968	大雪浄化センター完工。
1969	町長選で中山松雄氏当選(二代)。
1970	愛別中学校が新校舎に移転。
1971	町長選で中山松雄氏当選(二代)。
1972	愛別医院を開設。
1973	町長選で奥村時要氏当選(三代)。
1974	総合センター竣工。
1975	四町共同塵芥処理場、富沢衛生センターが完工。
1976	総合センター内に上川中部消防組合愛別支署が事務所をおく。
1977	愛山、愛別地区簡易水道工事完成。
1978	中里母と子憩の家竣工。
1979	旭山出身の旭国関が大関に昇進。新愛別駅舎完成。
1980	旭川営林署愛別合同担当区事務所竣工。
1981	町内の電話は全部ダイヤル化。
1982	愛別高等学校が北海道に移管。地籍調査事業をはじめ。
1983	旭山小学校廃校。
1984	10月6〜7日に旭川地方気象台が始まって以来の早い初雪に稲が倒伏、冷害対策本部設置。
1985	道北バス愛別、協和線の廃止に伴い、町営バスが運行される。
1986	金富公民館完成。
1987	町長選で久米敏氏当選(四代)。
1988	愛別ダム完成。
1989	第1回さこの里フェスティバル開催。
1990	ふるさと創生基金で小型飛行機購入。協和小学校新築。
1991	あいべつ球場オープン。
1992	宿泊研修施設、研修館「サンライズ」完成。
1993	石狩川親水緑地公園がオープン。
1994	高規格道路旭川紋別自動車道旭川・愛別道路着工する。
1995	愛別町立愛別幼稚園が開園される。
1996	愛のまちサミットが愛別町で行われる。町開基100年を迎え、各種記念事業が行われる。
1997	小春トンネル貫通式が行われる。
1998	道々下川愛別線於鬼頭トンネル完成。
1999	高規格生活福祉センターオープン。
2000	この里あいべつオートキャンプ場オープン。
2001	町長選で江淵昇一氏当選(五代)。
2002	字愛別に郷土芸伝承館完成。
2003	さくら保育所改築。
2004	石蔵改修「蔵KURARA」オープン。
2005	豊愛橋開通。
2006	愛別の地酒復刻「ふしこ」新酒披露される。
2007	小春トンネル開通。
2008	「ひがしの団地」分譲開始。
2009	特別養護老人ホーム「いこいの里」あい開設。
2010	高規格幹線道路旭川・紋別自動車道「愛別IC・愛山上川IC」開通。
2011	町長選で矢野宣行氏当選(六代)。
2012	旭川層雲峡自転車線「旭川・愛別間」26・5km開通。
2013	町制施行50周年。
2014	愛別高校開校61年の歴史に幕を閉じた。
2015	北海道教育委員会が旧道立愛別高校校舎を活用した道立知的障害特別支援学校高等部の新設(平26年4月開校2中間)決定(9・4)。
2016	旧中里小学校に企業連合事業協同組合北海道講習センターが開校(4・25)。
2017	町長選で前佛秀幸氏当選(八代)。
2018	北海道立美深高等養護学校あいべつ校開校。
2019	北海道立美深高等養護学校あいべつ校開校120年を迎え、各種記念事業が行われる。

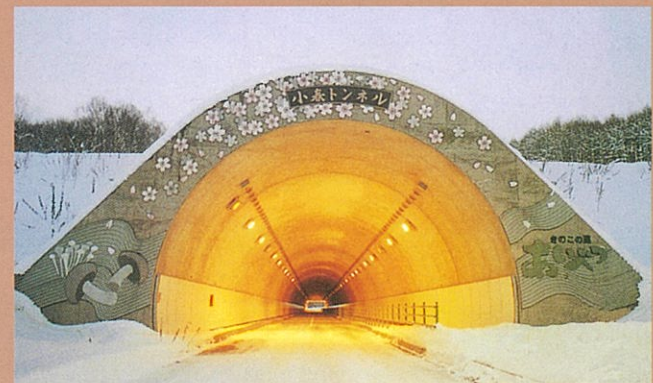


愛別ダム完成(昭和61年)

1982	昭和57年	旭山小学校廃校。
1983	昭和58年	10月6〜7日に旭川地方気象台が始まって以来の早い初雪に稲が倒伏、冷害対策本部設置。
1984	昭和59年	道北バス愛別、協和線の廃止に伴い、町営バスが運行される。
1985	昭和60年	金富公民館完成。
1986	昭和61年	町長選で久米敏氏当選(四代)。
1987	昭和62年	愛別ダム完成。
1988	昭和63年	第1回さこの里フェスティバル開催。
1989	昭和64年	B&G愛別海洋センター完成。農村環境改善センター完成。
1990	昭和65年	愛別郵便局舎新築。
1991	昭和66年	愛別町農業共済組合が合併により上川中央農業共済組合となる。
1992	昭和67年	愛別町農業協同組合協和支所が廃止となる。
2006	平成18年	公の施設に指定管理者制度導入。
2007	平成19年	愛別中学校校舎等改修工事完了。
2008	平成20年	町有飛行機「ムーニー号」売却される。
2009	平成21年	上川広域滞納整理機構が設立。
2010	平成22年	町長選で矢野宣行氏当選(六代)。
2011	平成23年	小学校閉校(愛山・中里・協和小学校)。
2012	平成24年	高規格幹線道路旭川・紋別自動車道「比布JC〜丸瀬布IC」まで開通。
2013	平成25年	町制施行50周年。
2014	平成26年	愛別高校開校61年の歴史に幕を閉じた。
2015	平成27年	北海道教育委員会が旧道立愛別高校校舎を活用した道立知的障害特別支援学校高等部の新設(平26年4月開校2中間)決定(9・4)。
2016	平成28年	旧中里小学校に企業連合事業協同組合北海道講習センターが開校(4・25)。
2017	平成29年	町長選で前佛秀幸氏当選(八代)。
2018	平成30年	北海道立美深高等養護学校あいべつ校開校。
2019	平成31年	北海道立美深高等養護学校あいべつ校開校120年を迎え、各種記念事業が行われる。



旭川・紋別自動車道 愛別IC・愛山上川IC開通(平成28年)



小春トンネル開通(平成25年)



愛別町開拓120年記念式典「未来への誓い」(H26)

## 歴代町長



二代目 中山 松雄



初代 前代 豊作



四代目 久米 敏



三代目 奥村 時要



六代目 矢野 宣行



五代目 江淵 昇一



八代目 前佛 秀幸



七代目 矢部 福二郎

## 沿革

本町は、明治28年に和歌山・岐阜・愛知から179戸が入植し、厳しい自然と闘い、また共存しながら、幾多の困難を乗り越えて今日の礎を築きました。

当時愛別原野は鷹栖村及び永山村に属していましたが、明治30年、鷹栖村の東北部と永山村の東部を分割して愛別村が誕生しました。

日々開拓に汗を流した先人たちの尊い努力で、うっそうたる原野は豊かな大地へと生まれ変わり、きのこ・米・畜産を基幹産業とした農業の町として躍進を続けています。

また日本で初めて自家用の飛行機を持った先進的な町であることも特筆すべき個性です。

## 町章

愛別の町名はアイヌ語のアイベツトから来ており、矢の川という意味です。その昔、この辺りは急傾斜の土地で、川の流れが矢のように速いところから命名されたものです。それに旭日を配し、愛別は旭日昇天の勢いで発展するとの願いをこめて制定されました。昭和9年11月6日制定。



## 行政 議会

本町の行政機構は、町長部局5課・議会・教育委員会・農業委員会・選挙管理委員会で構成されています。

まちづくりは今、町民参加の時代です。本町においても広く町民の声を反映した「対話による開かれた町政」をモットーに、町長室を解放し、誰もが直接町長と話ができる機会をつくるなど「町民が誇れるまちづくり」を進めています。

また町議会は町民の意思を代表・決定する機関として、年4回の定例会と必要に応じて臨時会を開き、重要施策を審議しています。

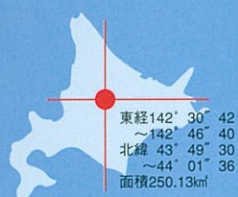


## 気候

大雪山連峰に囲まれた上川盆地の東北端に位置するため、内陸性気候で寒暖の差が大きく、気温は夏には30℃、冬には氷点下20℃を超えることもあります。年平均気温は5℃前後、年間降水量は800mm、降雪量は6m程度です。

## 位置・地勢

本町は北海道のほぼ中央に位置する上川盆地の東北端、北海道の屋根と呼ばれる雄大な大雪山連峰の麓にあります。東は上川町、西は比布町、南は当麻町と接しており、北は山脈を境として土別市に接しています。車で旭川市内まで約45分、旭川空港からは、東京、名古屋への直行便があります。



町木 さくら



町花 つつじ



町章